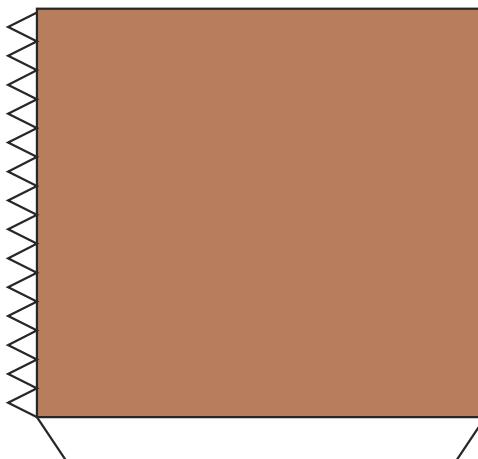
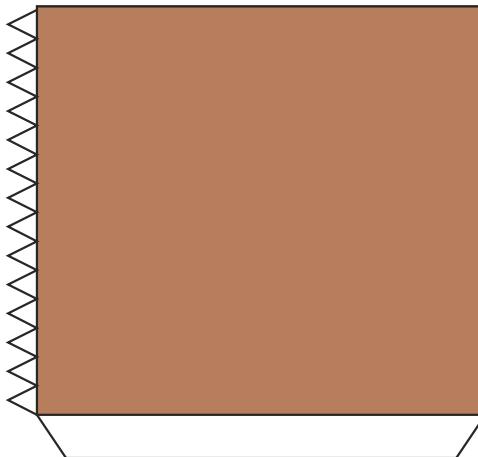
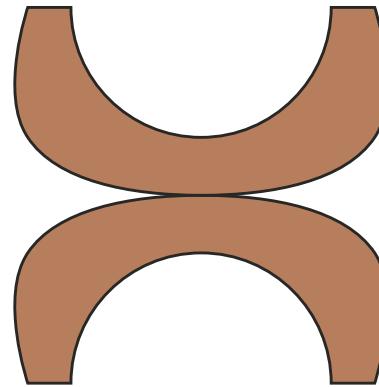
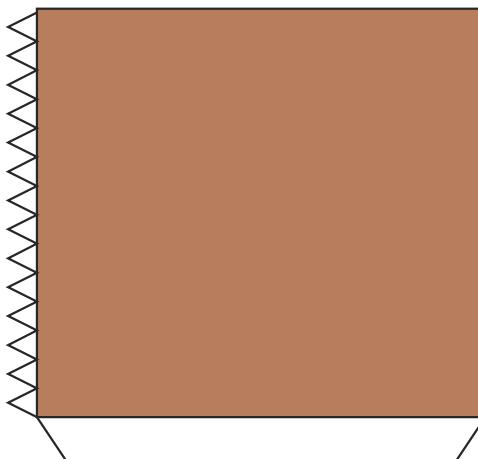
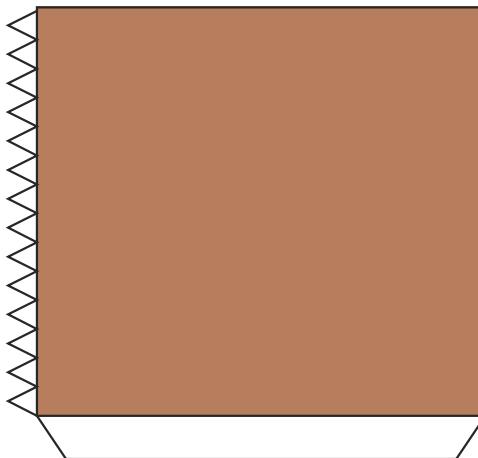


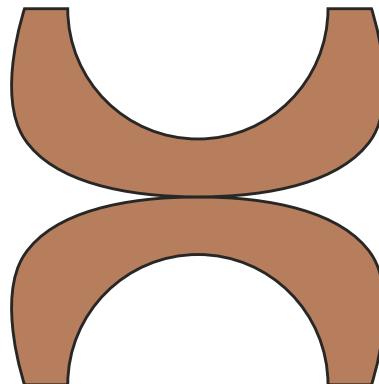
脚



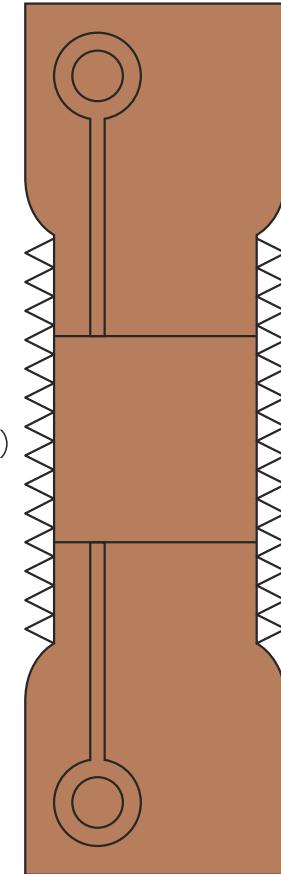
胸がい（馬鐸）



鞍の前輪



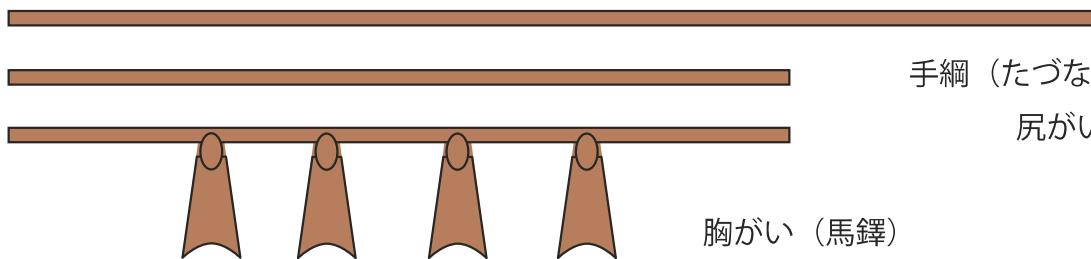
鞍の後輪



(前)

(後)

鞍（くら）・障泥（あおり）



手綱（たづな）

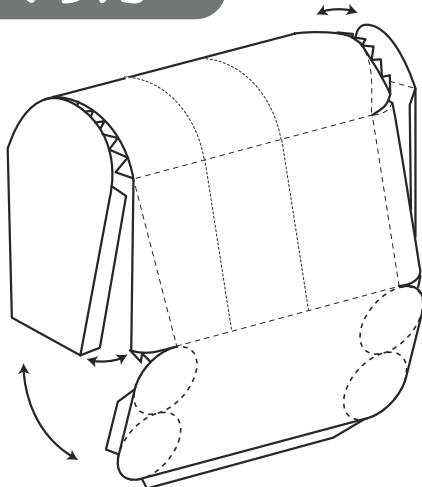
尻がい

胸がい（馬鐸）

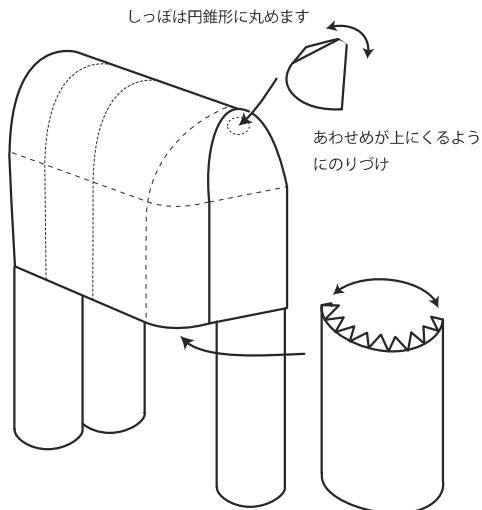
埼玉県熊谷市上中条出土（重要文化財）の馬形埴輪をモデルにしています。

鈴の付いた鏡板付の轡（くつわ）や鈴杏葉（ぎょうよう）、馬鐸などで飾られています。

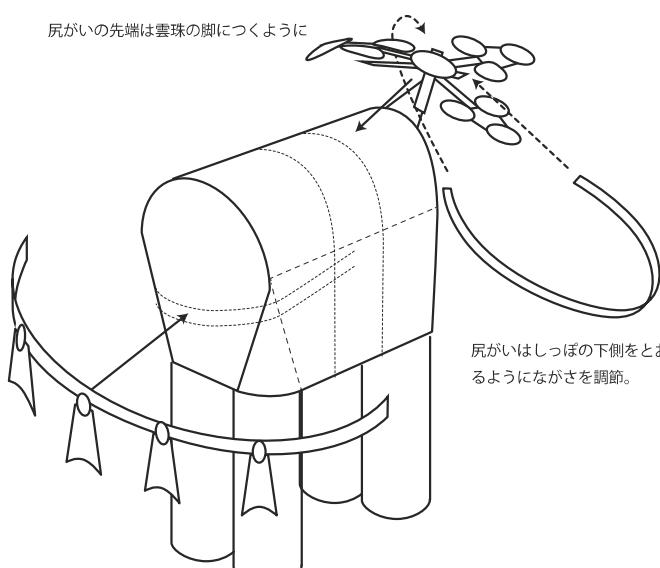
## つくり方



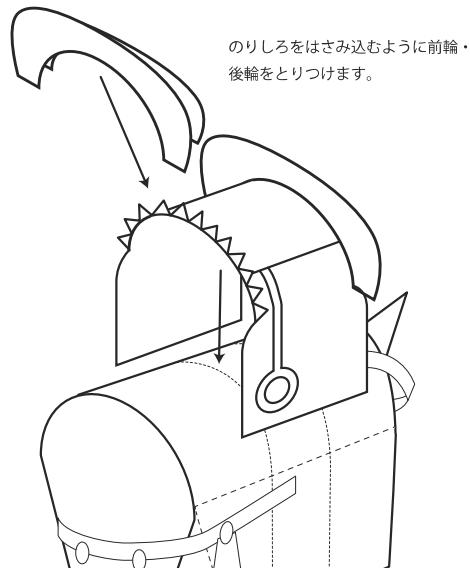
①胴体を箱形にのりづけします。  
背中とおなか側やおしり側の角が丸くなるので注意。



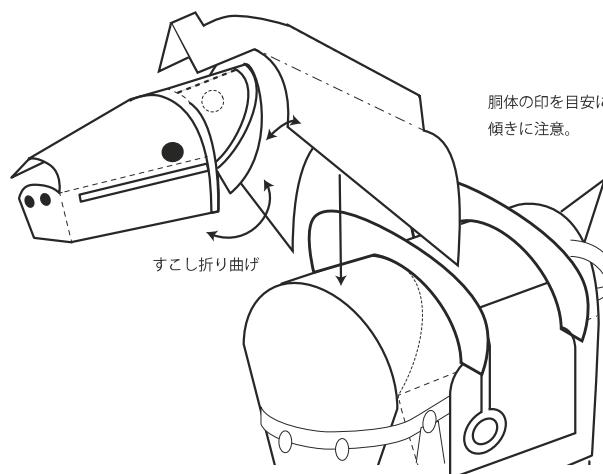
②脚、しっぽをそれぞれつくり、印の位置にのりづけします。



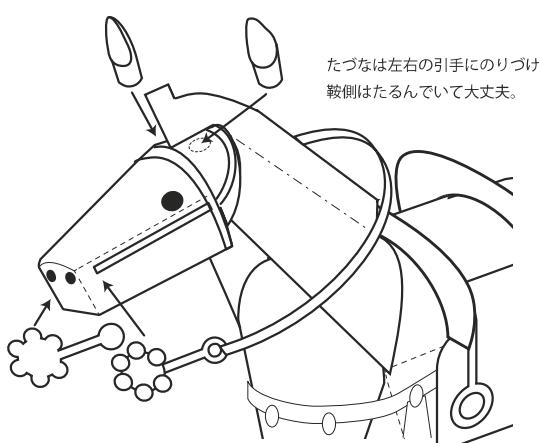
③雲珠・杏葉、胸がい、尻がいをのりづけします。



④鞍（くら）・障泥（あおり）を組み立て胴体にのりづけ。



⑤たてがみを張り合わせ、鞍前輪の前にくるようにくびをのりづけします。  
あたまはうつむくように曲げて、くびの上からかぶせるようにのりづけ。



⑥みみ、轡（くつわ）、たづなをとりつけます。  
みみ、轡は左右があるので注意。